客員教授紹介

開発途上国の農業開発とICCAE知見活用

国際協力銀行（JBIC）澤井克紀
客員教授第Ⅰ種（任期：2005年4月1日～2006年3月31日）

開発途上地域における貧困人口の約75%は農村部に集中しており、貧困削減を主要命題として位置づけている国際協力で、農業分野は依然として重要な開発課題になっています。しかも、従来の灌漑施設等を整備し、農業投入財を確保し、農村の余剰労働力を都市部に頼るというアプローチを繰り返すだけでは、持続可能な農業の確立にも限界があることも明らかになってきました。農村部の貧困削減、環境対策、農産物加工業の育成、そのためのステークホルダーの事業参加といった数次元の異なる課題を包括的に扱うためには、農学に裏付けられた賢い知恵が求められているのだと思います。その意味で、ICCAEが開発途上国で貢献できることも、戦略的かつ挑戦的なものでしょうし、今回の研究を通じて、その可能性を実践してみたいと思っています。

略歴 1958年生まれ。1981年東京工業大学工学部卒業。1982年アジア工科大学院人間居住開発研究科修士課程修了(工学修士)。1983年海外経済協力基金（現国際協力銀行）採用。以降カイロ、ナイロビ駐在の他、プロジェクト開発、調査、評価を担当。2005年7月より国際協力銀行プロジェクト開発部次長。

林学・木材科学分野の教育専門家育成に資する上級版プログラムの開発

（ブラジル・パラナ連邦大学上級教授）
ロベルト・ツヨシ・ホソカワ
客員研究員（任期：2005年2月1日～3月31日）

私は2005年２月１日から３月末日までの２ヶ月間、ICCAEの客員研究員として滞在し、標記の研究テーマに取り組みました。この研究テーマは、ブラジルの森林の持つ社会経済的機能、名古屋大学とパラナ連邦大学の持つ教育面での活力、日本とブラジルの科学技術水準、に大きく依存します。テーマの対象とした地域タイプは、アマゾン熱帯降雨林、サバンナ、乾燥ステップです。ブラジルの森林資源を大量に利用して生み出された、さまざまな、有益なあるいは有害な結果に対処するには、環境に適合した技術と高度な科学的能力を身につけた人材を必要とします。研究の結果、科学的、社会的、政治的な力量をもったリーダーたちを育成していくべきとの結論を得て、ブラジル側で育成にあたることのできる上級研究者のリストを作成しました。

本研究の機会を与えてくださったICCAEに、厚く御礼申しあげます。とりわけ、北川教授には、開発途上国の森林資源問題に関する討議などで私の良きパートナー役を務めていただきました。心から感謝いたします。

略歴 1945年ブラジル生まれ。1969年パラナ連邦大学森林科学科卒業。西ドイツ・アルバート・ルードヴィッヒ大学より修士学位（1974年森林計画学）およびPhD（1976年森林経済および森林管理学）を取得。1970年パラナ連邦大学助手、同助教授を経て、1980年同大学教授、1998年より同大学上級教授。1976年よりブラジル政府の各種審議会委員を務める。

2004年度農学国際センタのーオープンセミナー開催記録（10月～3月まで）

回数	日　時	テーマ	講　師	所　属	参加者数
第６回	2004年 10月26日	Agriculture for Peace Studies sponsored by United Nations Universssity	ザカリア・マレー アニー・レワ アヤネ・ボゲール	タンザニア農業食料省研究官 ケニア畜産開発省上級獣医 エチオピアアレマヤ大学経済学科長	20名
第７回	11月25日	マレーシア国水田灌漑プロジェクト（世界銀行）でのシニア海外ボランティア（JICA）体験	山田雅弘	山田水利環境研究所（YWEI） 代表取締役	11名
第８回	2005年 １月19日	ナミビア大学農学部への研究協力 ―血液型を介しての遺伝学―	水谷　誠	財団法人　日本生物科学研究所 付属実験動物研究所 主任研究員	10名
第９回	２月17日	これまでの研究、国際協力活動と今後の抱負	浅沼修一	独立行政法人　国際農林水産業 研究センター沖縄支所　支所長（当時）	13名
第10回	２月21日	農業分野における大学と円借款の連携	松澤猛男	国際協力銀行（JBIC） 開発セクター部　次長（当時） 2004年度本センター客員教授	10名
第11回	３月３日	ブラジルの森林資源開発・保全問題に関する国際教育協力の可能性を求めて	ホソカワ ロベルト ツヨシ	ブラジルパラナ連邦大学 上級教授（森林工学） 2004年度本センター客員教授	23名
第12回	３月11日	日本の大学における 農学教育カリキュラムの解析	田島淳史	筑波大学　農林技術センター	10名